

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300688
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里中原
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区中原西2丁目7-8 (電話) 093-873-3151

評価機関名	株式会社アーバン・マトリクス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月15日	評価確定日	平成20年12月14日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての全階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(6年間)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,350 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	14 名	男性	5 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池園医院 / 戸畑けんわ病院 / 牧山中央病院 / 戸畑共立病院 / 荒井歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいこいの里中原は、戸畑区の閑静な住宅地に位置し、3階建ての屋上からは、周辺が一望できる環境にある。街なかの立地特性を活かし、買い物・ドライブ・散歩など、ホームに閉じこもらない暮らしを支援しており、年間行事の中で家族同伴の温泉旅行にも出かけ、入居者の生きがいにつながる取り組みを積極的に支援している。今年度の春からは、口腔ケア委員会をつくり、口腔ケアと嚥下体操に取り組み、毎日の食事を美味しく痛みのない食生活を送っていただくなど高い効果を上げている。また、地域との連携も年々高まってきており、老人会の行事に参加するなど、地域との交流・ふれあいに努めている。日々のケアやサービス提供の中で、入居者本位の個性性を重視し、入居者の個別ニーズに極め細やかに対応しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域とのつきあい、思いや意向の把握、災害対策について、今後取り組みを期待したい項目として挙げられていた。いずれの項目についても改善に向けて確かな取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、日々のケアの中で運営者・管理者・職員で振り返り、ケアやサービスの質を高めるために取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催し、ホームの活動や取り組みを理解していただくために、入居者の現状報告を行い、行事報告・研修報告・事故報告・ヒヤリハット報告・自己評価・外部評価報告を行い、問題点など気づいた点などの意見交換を行い改善に向けて、サービスの質の向上を目指して取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に家族代表の参加があり、ホームの現状など意見や意向を言ってもらえるように取り組んでいる。家族の面会時には必ず声をかけ、入居者の状況報告を行うと共に月に一度、手紙で尋ねるなど工夫している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会や地域の行事・消防団に参加しており、日々の散歩や買い物を通じて薬局や米屋・スーパーを利用し、地域との関係性を高めるように努めている。運営推進会議に地域の方の参加があり、地域の情報などを教えていただいている。今後は更に民生委員やボランティアとの協力関係を築いていきたいと考えている。今後の地域との連携に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いこいの里グループとして、地域密着型サービスとしての意義を理解し、地域との連携は「地域との連携と共存について」という方針のもと明確なビジョンを掲げている。その中では、介護かけこみ寺的な発想で地域に開かれたものを目指すことあり、目指す地域連携図が示され、地域の介護拠点及びネットワーク体制の整備など具体的にその機能の強化を打ち出している。地域密着型サービスとしての役割をグループとして独自のビジョンをつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務やミーティングなどを通して、常に入居者へのケアやサービス提供が、一人ひとりの入居者の生きがいや喜びにつながっているかを考え、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地域の行事・消防団に参加しており、日々の買い物を通じて薬局や米屋・スーパーを利用し、地域との関係を高めるように努めている。運営推進会議に地域の方の参加があり、地域の情報などを教えていただいている。今後は更に民生委員やボランティアとの協力関係を築いていきたいと考えている。今後の地域との連携に期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受け、グループホームの役割を検討するなど、外部評価を活かした取り組みを行っている。自己評価は、日々のケアの中で運営者・管理者・職員で振り返り、ケアやサービスの質を高めるために取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催し、ホームの活動や取り組みを理解していただくために、入居者の現状報告を行い、行事報告・研修報告・事故報告・ヒヤリハット報告・自己評価・外部評価報告を行い、問題点など気づいた点などの意見交換を行い改善に向けて、サービスの質の向上を目指して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会に所属し、協議会の組織を通じて行政との意見交換や連携などを図っている。また、日常的には戸畑区介護保険課や地域包括支援センターと入居に関する情報交換を行うなどの連携もある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	日頃から北九州市の「みとらいと」や社会福祉協議会と連携を図り、入居者や家族に何時でも適切な対応ができるようにしている。また、運営母体であるウキシログループの弁護士に相談できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず声をかけ、入居者の状況を報告している。毎月「いこいの里中原通信」を発行し、入居者の日々の暮らしぶり・健康状態を報告している。その際、金銭管理として預かり帳のコピーを送っている。職員の異動については運営推進会議にて報告している。今年度は「いこいの里通信」も発行し、主な行事の入居者の様子や認知症ケアに関する情報・勉強会のお知らせ・行事予定など極め細やかな情報提供を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表の参加があり、ホームの現状など意見や意向を言っていただけるように取り組んでいる。家族の面会時には必ず声をかけ、入居者の状況報告を行うと共に月に一度、手紙で尋ねるなど工夫している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の間を重視し、職員の異動や離職がある場合には事前に説明を行っている。入居者が混乱しないように入居者と職員のなじみの関係に配慮し、全職員でカバーしていく体制がある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たり、性別や年齢などで採用の対象から排除することなく、男女雇用機会均等法を遵守し、採用を行っている。また、働く職員の意見を十分に把握できるように独自の報連相ノートの作成やアンケート・個人面談などにより、意見を反映できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月のホームミーティングや社員ミーティング・管理者ミーティングなどを通じて人権に対する意識を高め、研修など学ぶ機会を持ち日々の業務に活かしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会やウキシログループとしての研修で、職員のスキルアップを図るために研修受講を支援している。また、日々の業務の中でも学べるように能力向上に取り組んでいる。職員の心得・基本的介護チェック表など、毎月、項目に応じて自己評価を行い、日々のケアやサービスを振り返り、自己研鑽を奨励している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や戸畑区事業者連合会に所属し、積極的に同業者と交流や情報交換の機会を持っている。また、サービスの質の向上を目指し、グループホーム間の連携や相談できる関係を築いている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前より訪問や面談などを行い、グループホームのケア内容などを説明し、本人・家族と共に相談しながら事前の準備を行い、安心して納得が得られて入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	何気ない会話や本人の興味・得意なこと・できることを把握し、入居者の能力に応じて買い物と食事づくりを毎日の日課としている。献立も30品のレパートリーがある。居室の掃除や洗濯物たたみなど、できることは行っていたり、職員と入居者が共に支えあう暮らしを実現している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を採用し、本人の生活暦・生活習慣・本人の希望など情報を集約しアセスメントを行っている。入居者の思いや意向を把握することで暮らしの中で、意向にそった支援ができるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	個別のファイル化や細かなアセスメントシートを作成し、入居者の状態や気持ちなど把握できるように取り組んでいる。短期目標については、日々のケアや暮らしの中で、短期目標達成に向けて、日々のモニタリングを行い評価していくことが求められる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	長期目標・短期目標を設定し、3ヶ月に1回計画の見直し、毎月モニタリングを行い、短期目標が達成できているか確認している。達成された場合は、新たに目標を立てて新しく計画を作成している。今後は状態変化に応じた見直しの充実を図っていきたいと考えている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	ウキシログループの2つのグループホームとの連携や協力体制がある。年1回温泉への1泊旅行も実施しており、マンパワーや合同企画など充実している。また、グループには介護付き有料老人ホームなど、ニーズに応じて住み替えが可能であり、本人や家族の要望に応じて相談できる体制がある。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医とは連携を取りながら、月2回主治医の往診の体制がある。医療との連携は24時間取れる体制があり、入居者の症状や状態により適切な治療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に終末期の説明を行い話し合っている。また、同法人の特定施設でもターミナルケアに対応できる体制がある。看取りの方針に関しては、いこいの里の考えるターミナルケアについての中で指針が示され、医療機関との連絡調整・家族支援など状況に応じた看取りへの対応が明確に示されている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いには十分に注意し、保管や管理を行っている。契約書・運営規定に秘密保護を掲げ、入居者に対して尊敬の心を持ち、言葉づかいに配慮し話すように職員全員で取り組んでいる。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れはあるが、個別の生活リズム・気分・体調に合わせて散歩やレクリエーションなど、ゆっくり楽しく過ごしていただけるように柔軟な対応を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>楽しんで食事をいただけるように毎日の食材の買い物を入居者と職員で行っている。入居者がメニュー作りに参加して楽しんで食事作りを手伝ったり、できることは一緒に行っている。食器なども個別性を大切にしている。誕生日は、本人の希望に応じて外食なども取り入れている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日、安全な入浴サービスを提供するには入居者が重度化してきており、状況に応じて、随時シャワー浴や清拭・部分清拭など柔軟に対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者のそれぞれの趣味や生きがいなどを把握し、詩吟・歌・踊り・玄関の花の手入れ・水やりなど生き生きと生活できるように場面作りを支援している。日常的に買い物や散歩など閉じこもることなく気分転換など工夫している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	街なかの立地特性を活かし、日常的な外出や散歩・買い物など楽しんでいただいている。近くの特別養護老人ホームの協力もあり、行事に参加したり外出の機会もあり、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
。					
29	68	鍵をかけないケアの実践	常に職員が目配りを行い、入居者の所在を確認し、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域の消防団に参加し、災害の対応に備えている。消防署の指導のもとに年2回(6月・10月)避難訓練を実施している。消防用設備などの点検を年1回受けている。救命法やAEDの使い方の講習会を検討している。地域の緊急連絡網など、できることから地域との協力関係を築いていくことが求められる。		運営推進会議で地域への協力をお願いするなど、今後の取り組みに期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者の状態に応じて、食事量をコントロールし、必要な食事量を取れるように支援している。水分摂取量は、必要量の確保に努め、コーヒー・緑茶・麦茶・紅茶・牛乳などを準備し、入居者の嗜好に応じて飲み物を飲んでいけられるように取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	3階建ての建物の1階と2階に広々とした共有空間があり、開放感あふれる空間となっている。また、間接照明が設置され、優しい光など居心地の良い空間となっている。今後は、季節に応じた壁飾りや置物も配置し、温かい雰囲気づくりをしていきたいと考えている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者それぞれの使い慣れたなじみの仏壇・筆筒・ミニ冷蔵庫などが持ち込まれ、写真や塗り絵なども飾られ、入居者が居心地よく安心して過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			